

- ・杏林大学病院がんセンターの設立
- ・組織・診療科名が変わりました
- ・診療科長紹介
- ・病院ホームページをリニューアルしました
- ・快適厨房コンテストで優秀賞

contents

【お知らせ】診療科名が変わりました

2008年度、杏林大学病院の組織・診療科名が変わりました。診療体制を整え、充実した医療の提供に努めてまいります。

●組織名・診療科名の改変

変更前	変更後
腫瘍センター	がんセンター
健康医学センター	人間ドック
高齢医学	高齢診療科
救急医学	救急科
臨床検査医学	臨床検査部

●新設

造血細胞治療センター
高気圧酸素治療（HBO）室
腫瘍科

腫瘍科を担当する古瀬です。最近がんの分野は腫瘍学（oncology）としてますます進歩しており、oncology全体を体系立てた教育や診療・研究の必要性が高まっています。特に化学療法法の進歩は著しく、また新しい概念の治療薬も次々と登場しています。

今回、付属病院に腫瘍科として化学療法法を中心がん全体を扱う部門が立ち上がり、その責任者として任を果たす機会を得ました。

がん診療は特にMultidisciplinary Teamworkingが必要な分野であり、外科、内科、放射線科、病理など基礎医学、看護、ソーシャルワーカーなど多くの部門の協力によって成り立っています。そのような包括的ながん教育・診療・研究の一翼を担えればと考えております。



腫瘍科診療科長
古瀬 純司

清水厚生病院、社会保険船橋中央病院、国立柏病院、国立がんセンター東病院を経て、昨年杏林大学医学部付属病院へ。

今年度はさらに外来化学療法室を2倍以上に拡充し、通院がん化学療法法の便宜を図ります。このことによりがん患者さんの家庭でのQOLがより向上します。さらに、がん化学療法専門病棟での高度で安全な治療をすすめる体制、再発患者さんへの適切な治療と支援体制、進行して終末期を迎えた患者さんには緩和医療や在宅医療の支援体制の整備を進めます。

また、地域の基幹病院と連携して地域に根ざした、地域を支えるがん診療に取り組みます。

今や国民の約半数の人が生涯に1度はがんに罹ってしまう時代です。杏林大学医学部付属病院は平成20年4月にがん診療連携拠点病院の指定を受けました。これを機に、従来腫瘍センターとして運営していたのを、「がんセンター」と改組・発展させました。とくに、癌化学療法を専門に取り扱う腫瘍科を設立し、古瀬純司新教授を迎えました。

■杏林大学病院がんセンターの設立 地域で支えるがん医療、地域に根ざしたがん治療を推進するために

■診療科長紹介



眼科診療科長
平形 明人

国立東京第二病院、国立栃木病院、慶應義塾大学病院を経て、平成4年杏林大学医学部付属病院へ。

杏林アイセンターの平形です。前科長故樋田哲夫名誉教授の遺志を受け継いで、患者さんに最善の眼科医療が提供できるように努めたいと思います。眼科も角膜移植などの角膜疾患、白内障、緑内障、網膜剥離や糖尿病網膜症などの眼底疾患、ぶどう膜炎、小児眼科、神経眼科、眼瞼眼窩疾患など多岐の専門に分化しています。それぞれの専門領域を充実させ、当院で十分な分野では、他施設との連携を密接にして、多くの患者さんの quality of life の維持・拡大に貢献したいと考えています。

今年は、国内で初めて誕生した総合眼科施設アイセンターの10周年にあたります。これまで、外来手術システム構築、Tom's Stock リニックスの充実、緊急手術の多い網膜硝子体手術などに、全国から多くの見学者が訪問されました。また、アイセンターで教育を受けた訓練医の general ophthalmologist としての優秀さが注目されてきています。この伝統を受け継いで、さらに関連する診療科、視能訓練師、看護師らとの協力体制を進展させて、アイセンターから最先端の医療を発信したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

眼科 平形明人教授と腫瘍科 古瀬純司教授が新しく診療科長に就任しました。

■快適厨房コンテストで優秀賞

当院の厨房が「快適厨房コンテスト2007」（東京電力開催）で、「優秀賞」を受賞しました。

審査のポイントとは、エネルギーの有効活用や安全性、作業環境、衛生環境、作業効率等への配慮などを総合的に評価します。

当院に昨年オープンした外科病棟内の新しい厨房は、コンテストに応募した29件の中から見事「優秀賞」に選ばれました。

【杏林大学医学部付属病院】

〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2

TEL 0422-47-5511（代表）

http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital



■病院ホームページがリニューアル

新しいホームページは、「親しみがあり、伝わりやすく、見やすい」をコンセプトに、色使いやデザイン構成などを工夫しています。

月に1度更新する、インタビュ形式の「当院のドクター紹介」や、当院ならではの診療内容をまとめた「各診療部門の取り組み」はトップページからご覧いただけます。

地域に根ざした医療を提供してゆくにために、このホームページが皆様と当院をつなぐツールとなるよう、内容を充実させてまいります。

■もの忘れ教室のご案内

もの忘れセンターでは、認知症に対する理解をご家族で深めていただくために、もの忘れ教室を無料で開いています。もの忘れ教室は1回につき6家族を対象に、月5〜6回実施しています。

また、地域のコメディカルの方も対象にしていますので、受付までお問い合わせください（少人数であれば5月受講可）。

*申し込みが多いため、1家族月に2コマ程度までの受講とさせていただきます。

もの忘れ教室で行っていること

【講義形式の教室】

- ◎認知症とはなにか
医師が、認知症とその原因について分かりやすく説明します。
- ◎もの忘れの予防と治療
医師が、もの忘れの予防とセンターで行われる治療について説明します。
- ◎嚥下障害とその対応
水を飲んだり食事のときムセたり苦しくなったりすることはありませんか？原因やその対応についてお話しします。
- ◎認知症の介護
ソーシャルワーカーが、介護保険の申請や介護サービスの利用について説明します。
- ◎認知症の合併症
医師が、高血圧や糖尿病などの生活習慣病について分かりやすく説明します。

【皆さんで体験してみませんか？】

- ◎音楽療法
歌ったり楽器を演奏したりします♪
- ◎回想法
昔のことについて皆さんで話してみませんか？
- ◎運動療法
太極拳を体験してみませんか？転倒予防にもなります

5月もの忘れ教室(無料)

6階もの忘れセンターにて

音楽療法

認知症とはなにか

認知症の介護
一介護サービスを使いこなすためにー

もの忘れの予防と治療

嚥下障害とその対応

活性化と転倒予防ー運動療法の考え方ー



お申し込みは受付まで

杏林大学病院もの忘れセンター（外来棟6階）

スタッフ：医師 初診担当5名、再診担当8名
看護師1名、臨床心理士2名、
言語聴覚士2名、音楽療法士1名

■呼吸器外科の取り組み

肺癌の縦隔リンパ節転移評価は病期（ステージ）、治療法決定において重要です。

呼吸器外科では、縦隔リンパ節転移診断精度向上のために、様々な取り組みを行っています。

従来は全身麻酔下での縦隔鏡検査を行っていましたが、現在はPET検査をPET診断と併用し診断率を上げています。

また、最近では、低侵襲な方法として超音波ガイド気管支鏡を用いて、経気管支的に縦隔リンパ節を生検する方法（EBUS-TBNA）を積極的に取り入れています。

呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍科の合同カンファレンス・申し送りを行い、治療法の検討を行っています。

■臨床研修医パンフレット完成

職員教育室は、当院で臨床研修を希望する、全国の医学生・研修医に向けたパンフレットを作成しました。パンフレットでは、臨床研修プログラムや医療施設などを紹介しています。



＊お知らせ＊

レジナビフェア2008に参加します。
「医学生のための
臨床研修指定病院合同セミナー」
日時：7月13日（日）10時～17時
会場：東京ビックサイト

イベントのご案内

入用無料
申し込み不要
直接会場へ

●杏林大学公開講演会

5月24日（土）

午後1時半～3時
（大学院講堂）

「これからのがん治療」

呼吸器・甲状腺外科 呉屋朝幸

●コンサート

5月31日（土）

午後4時～5時
（外来ロビー）

病院内アンサンブルコンサート

医学部管弦楽団

●杏林大学公開講演会

6月14日（土）

午後1時半～3時
（大学院講堂）

「あなたの睡眠は大丈夫？
睡眠時無呼吸症候群が引き起こす疾患」

耳鼻咽喉科 甲能直幸

●看護部主催講演会

6月21日（土）

午前10時～11時半
（大学院講堂）

「5s活動の実践」

財団法人竹田綜合病院 武田登志子先生

●杏林大学公開講演会

6月24日（火）

午後5時半～7時
（大学院講堂）

「増えてきた膵がん」

消化器・一般外科 杉山政則

■安全な医療を提供するための取り組み

医療事故防止対策マニュアル第7版を発行



当院では、毎年リスクマネジメント委員会や医療安全管理室が中心となり、各部署における安全指針や事故防止のための共通手順などを細かく記した医療事故防止対策マニュアルを作成しています。

病院の全職員に配布し、安全な医療を提供するために役立てています。